

---

# 黃金色の風

如月 葉月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黄金色の風

### 【Zマーク】

Z8894M

### 【作者名】

如月 葉月

### 【あらすじ】

この物語は、2011年の春。田舎から都会へと引越してきた、とある少女の日常を描いた物語である。

小説の投稿はこれが初めてです。ついでに初心者です。友達がこのサイトで小説を書いているので、試しに書いてみようかなあと思い、書いてみました。

是非、アドバイス等をしていただけると嬉しいです。

よろしくお願ひします。

誤字・脱字があるとは思いますが、そこはまあおおめにみてやって

ください。

原作のせうなんですが、結構考えたんですけど、思いつかなかつたので、テキトーに書いてみました。そいつらにもおおめこみてやってください。

## 【都念】（前書き）

完全な初心者です。ストーリー考えるのもヘタクソです。そいぢら辺  
おおめにみてやつてください。

## 【都会】

一台の車があるマンションの駐車場にとまつた。

「ここが新しくすむ所なんだね。都会だね。なんだかワクワクする！」

とある少女がその車から降りてきた。

その少女は、髪の毛はショートカットのツインテールで、色は茶色。胸元に大きな二コちゃんマークが描かれたTシャツを着ており、半ズボンのジーパンをはいている。ぼろぼろのスニーカーを履いて、見た目はポップな服装だ。だが、何か田舎くさい。どうやらこの少女は、田舎の中学校を卒業し、都会にある高校に通うことになった。だから、この都会のに引っ越してきた。

この少女の名は、『サワムラ 沢村 飛鳥』アスカ という。

- この日から、彼女の都会の学園生活が始まった。 -

次の日の学校。桜田高校の1年2組の飛鳥が机に座つていると。

「おはようーあたし、『タナカ 田中 美樹』ーよろしくね！」

飛鳥の前には、髪の毛がショートヘアで色が青。いかにもスポーツできそうな感じの少女が立っていた。

「お、おはよう。私は沢村飛鳥だよーよろしくね。(汗)」

急に話しかけられたので、驚きながらも飛鳥は返事をした。

たくさん友達ができるか心配な気持ちがあるが、今後の学園生活がとても楽しみな飛鳥であった。

## 【都合】（後書き）

短いですが、こんな感じでどうでしょうか？アドバイス等があつたらお願いします。今後少しずつ頑張っていきたいと思います。

## 【友】（前書き）

なにかとはあるものなんですね。 小説つて。

私は小学生なので、高校のこととはよくわかりません。

「高校はこんなの無い。」 や、「高校ってこんなんじゃない。」

と思つた方は、教えてくださいとも、教えてくださいなくとも、どちらでもいいです。

とりあえずよろしくお願ひします。

## 【友】

「では、委員会を決めたいと思いまーす。」

今、桜田高校の1年2組では、委員会決めをしているのである。  
「では、運動（体育）委員になりたい人ー。ちなみに、男女一人ずつだぞー。」

「はいはい！なりたいです！」

飛鳥は、頭が悪い代わりに、運動神経だけはいいので、そこで手を上げた。

「じゃあ、運動委員は沢村と、岡部に決定だなー。」

休み時間になつた。

「沢村・・・だつたよな？俺、同じ運動委員の【岡部 健太】。よろしくな。」

飛鳥の前には短髪で青色の髪をしている、岡部と名乗る少年がいた。  
「あ、私は沢村飛鳥だよーよろしくねー！」

飛鳥は元気に答えた。

「じゃあ、また後でなー！」

そういうと健太は去つていつた。

「ちょっとおー、結構かつこいこじゅーん。よかつたねー、友達になれてー。（ニヤニヤ・・・）」

突然美樹がからかつてきた。

「ち、違うよおー。そんなんじゃないよー。（アタフタ・・・）」

「もう、飛鳥ー、バレバレだよおー？」

「違つてばあー。だつて、殺意しかないもん。（ニヤリ・・・）

「えええー！」

「嘘だよおー。」

「びっくりしたー。もひやめてみおー。リアルだよー。」

「どうゆう意味よー。」

とこり、ぐだらないはなしをしていふと。

「君は保健委員の田中さんだね？」

と、短髪で金色の髪をした少年が話しかけてきた。

「そ、そうですけど・・・。」

「僕は同じ委員会の【坂下 光】サカシタ ヒカルだよ。よろしくね。（一いつ）」

どうやらその少年は、坂下といつらしい。

「キモツ・・・。」

「ん？」

「あ、あたしは田中美樹！ よろしく！（グッジョブ）」

「じゃあね。（一一）」

「う、うん。（オホー・・・。なんじやいこいつ。まじで殺意しかねえ・・・。）」

そう言って去つていった。

そんな2人を見て、飛鳥は苦笑いしていた。

キーンコーンカーンコーン

下校時間になり、飛鳥は家に帰つていった。

## 【友】（後書き）

どうでしたか？

言葉がおかしいことがあるかもしれません、そこは承くだ  
れい。

次の話は、主に、飛鳥の家庭の話です。  
では、次回もお楽しみに。

## 【妹】（前書き）

最近、キャラの名前が思いつきません。考えているだけで疲れてくるので、前の文と全然違う内容だつたりします。

さて、今回の話は飛鳥の家庭のお話です。

誤字・脱字はごめんなさい。アドバイス等よろしくお願いします。

## 【妹】

午後6：30。

「ただいまー。」

「おかえり。」

「あれ？お母さんは？」

「お仕事。」

「そつか・・・。」

飛鳥が学校から家に帰つてくると、水色のロングヘアで、淡い色使  
いの服を着た、眼鏡をかけている妹が読書していた。妹の名前は『  
沢村 美幸』というそうだ。

「また読書してんの～？なにが面白いの？そんな字ばつかの本。」

「は？馬鹿にはわからねーよ。カス。」

「どうやら、この姉妹は口が悪いようだ。」

「ムカーッ！お前小6のくせに生意氣だぞーー。」

「逆に、高1のくせに子供っぽいな。」

「ブチッ！」の飛鳥を怒らせるとは、いい度胸してゐるな！・・・

やるか？」

「上等だ。」

そういうつて美幸は本を置き、戦闘体勢になる。それを見て飛鳥も戦  
闘体勢になる。

「「よっしゃああああー！」」

そんな掛け声をだしして、ケンカをしていると、急にドアが開いた。

「飛鳥～、遊びにきたよ～！」

と、美樹が入ってきた。

「「ああああん？」」

傷だらけになつた二人が同時に美樹の方を向いた。

「家間違えました～。（泣）」

美樹が涙目になりながらドアをしめた。

「あー、間違えてないからー。合つてるよー。（汗）」

「そうですよー。美樹さん、どうぞはいってください。（汗）」

二人は帰ろうとしている美樹をとめ、家の中に入れる。

一人が事情を説明すると、美樹は一瞬でテンションが上がり、「そりだつたんだー！それなら先に言つてよお～！」

と言つた。

（いや、あなたが勘違いしたんでしょ・・・。睨んだのは私たちだけ・・・。）

と沢村姉妹は心中で思つた。やはり姉妹だ。考えることが一緒だつた。

「じゃあ、今日お母さん仕事で遅くなりまし、ご飯でも食べていつてくださいよ。」

「そうだよー。」

「じゃあ遠慮なく。」

（少しは遠慮しろや・・・。）と思つた一人であつた。

午後8：30。

「じゃ、そろそろ帰るわー。ありがとうねー。」

美樹は、ご飯をたらふく食べ、さんざん遊び、部屋を散らかしていつた。

「ねえお姉ちゃん。」

「な、何？」

「美樹さんつて、あんな人だったの？」

「わからない・・・。」

二人は部屋を片付けながら話していた。

そのときだけ、姉妹の息はこの上ないくらいにピッタリだった。

## 【妹】（後書き）

どうでしたか？アドバイス等お願いします。

今後、登場人物のプロフィールを書いていきたいと思います。

名前：沢村 飛鳥サワムラ アスカ

誕生日：8月27日

血液型：O型

趣味：運動

特技：短・長距離走

好きな教科：体育

嫌いな教科：体育以外

好きな食べ物：ハンバーグ

嫌いな食べ物：ピーマン・にんじん

長所：明るい

短所：頭悪い＝馬鹿

好きな言葉：「必勝！」

次の話は、まだ考えていません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8894m/>

---

黄金色の風

2010年10月8日23時53分発行